



黄河の森

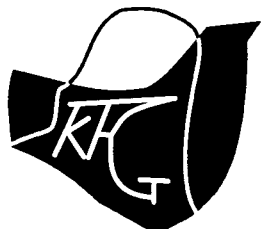
K F G

発行／特定非営利活動法人
黄河の森緑化ネットワーク
代表理事／林 同 春
編集責任者／林 青 彦 事務局長
〒650-0011
神戸市中央区下山手通り2丁目12-11
神戸華僑会館内
TEL・FAX:078-392-8328
E-mail:kouganomori@s6.dion.ne.jp
URL:http://www.k3.dion.ne.jp/~kougakfg
IP:05031111874



頑張れ！第2期植林の主役

小低木ベニスナ(紅砂)の野生種



ああ あの大河 太古より 流れる誇り
ああ その緑 永久に たやさぬ心
燃えたつ生命 ここに ここに

CONTENTS

- P.2 蘭州市南北両山環境緑化工程指揮部一行神戸へ
- P.2 地球とは人類共同の故郷であり
緑とは世界で一番の宝物である
- P.3 日本の生態建設を視察して
- P.3 2007年度植樹ワーキングツアーのお知らせ
- P.4 私と環境(6) 丹波市・下滝いろいる
- P.4 絵本からのエコ・メッセージIV
- P.5 黄土高原の植物VII
- P.5 六甲山クリーン&グリーン活動
- P.6 植樹ワークツアーに参加して

蘭州市南北両山環境緑化工程指揮部一行神戸へ

— 植えたヤマザクラにまた会いたい! —

昨年10月26日、日中友好林のカウンターパート・蘭州市南北両山環境緑化工程指揮部の馬金山総指揮ら職員6人が神戸に来られた。

27日(金)、KFGが植樹を行っている六甲山系の住吉山手での記念植樹には、指揮部・国交省職員・県国際交流協会・華僑団体各代表・KFG理事会員ら23名が参加して、ヤマザクラやコナラなど40本を植えた。

黄土高原の黄色い大地でのコノテガシワ植樹とはまた違って、緑豊かな六甲山に植えたヤマザクラをいつの日か見にやってくるために馬金山さんは感激の面持でスコップに土を入れた。

28日(土)、KFG主催フォーラムを“取り戻そう地球に緑を!”のテーマで神戸市役所前の三宮研修センターで行った。第1部では、渡辺弘之京都大学名誉教授が“アグロフォレストリーでの森林再生・緑化”をテーマに基調講演。第2部では、馬金山総指揮が“地球は人類共同の庭

であり、緑は世界で最高の宝である。”をテーマに、蘭州市南北両山の緑化事情とKFGの緑化協力の状況を報告し、ボランティア精神で生態環境の改善に愛情を注げば、地球はもっと美しくなると訴えた。

第3部の“植林を通じて人と自然との共生を目指す”では、芹田健太郎神戸大学名誉教授・愛知学院大学法科大学院教授をコーディネーターに、天野孝之KFG顧問・樹木医、遠藤京子NPO法人ヒマラヤン・グリーン・クラブ理事、服部保兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授、山中典和鳥取大学乾燥地研究センター緑化保全部門助教授をパネラーに、各地で緑化に取り組まれている各先生が映像をまじえながら話された。

10月29日(日)、神戸を出発してKFG理事・会員と共に世界遺産姫路城を見学して鳥取へ。鳥取温泉では、指揮部の人達との久しぶりの再会に、広島からの会員や出張を調整しての会員、そして植樹ワークツアー時に



六甲山で日中友好植樹

同行取材した記者は、鳥取支局からかけつけての交流となった。温泉での裸の語らいに日本食を舌づつみして“老朋友”との交友を温めた。

30日(月)は、鳥取大学乾燥地研究センターを訪問。大学時代にタイムスリップして、教室で山中典和助教授からセンターの歴史と研究などの説明を受けたあと、気温や湿度を調整して乾燥地を再現したドーム型のガラス温室“アリドドーム”では、耐塩・耐乾燥性植物や先進設備など詳しい説明があった。そして鳥取砂丘を見学して神戸に戻った。

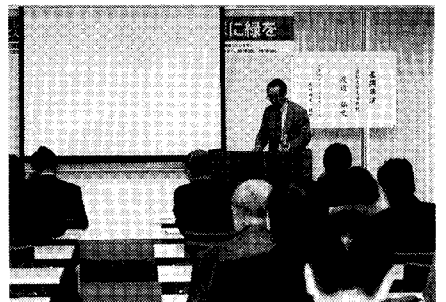
地球とは人類共同の故郷であり 緑とは世界で一番の宝物である

中国甘肅省蘭州市南北両山環境緑化工程指揮部 総指揮 馬金山

最初に視察団を代表して黄河の森緑化ネットワーク様に、この度の招聘と心温まる歓迎に対して心より感謝申し上げます。また、本日のフォーラムにご列席頂いている友人の皆様が崇高なる敬意を表します。今この瞬間私は大変興奮しております。何故なら私達は海を隔てて遥か遠方にてそれぞれ異なる生活をしておりますが、緑に対する共同の渴望と追求がお互いを緊密に結びつけ、相互理解を深めこうして集うことが出来ました。貴国に来日して3日目を迎えましたが、いたるところ緑に囲まれた山水が美しく、澄んだ空気に包まれ、このすばらしい生態環境を体感し我々は深い感銘を覚えました。素晴らしい自然環境が住民に幸福と喜びをもたらす事を実感させて頂き、また日本の友人皆様が緑について真剣に考え、それを熱愛しているさまを垣間見させて頂きました。

2001年甘肅省政府の幹部馬西林先生、甘肅省より日本に留学した柴生芳先生等の友人の方達の橋渡しを頂き、日本黄河の森緑化ネットワーク様が始めて蘭州市南北両山環境緑化工程指揮部を訪れ会談の場を設けて頂き、2002年正式協議書を交わし植

樹活動を実施し始めました。黄河の森緑化ネットワーク様は、2003年より蘭州市南北両山の緑化支援金として720万円を寄贈していただき、蘭州市人民の生態環境改善を支持して頂き、また前後5回にわたり延べ200名以上の友人が蘭州を訪れ、視察訪問・参観と植樹活動に参加して頂きました。現在までに中日友好記念林として48haを整備し、13.2万株の樹木を植樹して頂きました。もちろん中国の西部地域から見れば面積はあまり大きいとは言えず、植樹した本数も多くはないのですが、ボランティアとして皆様個人の資金を持ち寄り、尚且つ毎年国境をまたいで自らはるばる蘭州まで植樹活動に参加して頂いている行動は、私達双方の感情と友誼を深め、互いの良好なる信頼関係を構築しただけではなく、もっと重要なのはこの国際環境保護精神を広く皆に知らしめ、蘭州市はもとより甘肅省でも大変重要な社会影響を及ぼしました。私はいつも思います、もし地球上の人達がみな黄河の森緑化ネットワークの会員のよう



基調講演をされる渡辺弘之先生

美しくいられるのだろうか!

私は蘭州市と黄河の森緑化ネットワークの友好関係が長く続くことを心より希望いたします。それはまさに元神戸市長の笹山幸俊先生が仰った「この事業は100年の大計と考え、一代一代子々孫々伝えていかなくてはならない」に他ならないと思います。中国蘭州の生態環境の改善に皆様の力を貸して頂けることを希望します。是非この有史に残る偉大なる事業に参加してください!

最後に、多くの日本の友人の皆様が蘭州へ来られることを心より歓迎いたします。それは皆様が私達に示した愛情と熱意と同じ、いやそれ以上の気持ちで歓迎いたします。

ありがとうございました。

日本の生態建設を視察して

(蘭州市南北両山環境緑化工程指揮部総指揮 馬金山)

<はじめに>

NPO法人黄河の森緑化ネットワーク(KFG)代表理事林同春先生のたつての要望により、10月27日から11月6日の日程で、蘭州市外事辦公室の批准同意を得て、私をはじめ柴生芳、丁潔、楊玉榮、張喜林、陳雲の6名で視察団を組織し、KFG及び神戸華僑總會への友好訪問を実現させました。

日本滞在期間中はKFG及び神戸華僑總會の熱烈なる歓迎と心温まる接待を受け、またKFGの執行部理事各位と第一期中日合作による緑化事業の建設状況の総括について意見交換の場を設け、第二期の合作事業について細かい打ち合わせを行いました。双方は一致して第一期中日友好記念植樹活動の展開は大変有意義な事業展開で、46haの造林緑化工程を完成しただけではなく、もっと重要なのは双方がお互いに理解と信頼をより深められ、より厚い友情をもたらしたことで、それは今後お互いのさらなるより幅広い合作をする上でなくてはならない基礎を固められたことです。

<日本に学んだこと>

日本での滞在時間にも限りがあり視察出来た場所もそれほど多くはなかったのですが、KFGの会員達から受けた情熱と真心のこもったもてなしは、私達視察団に大変すばらしく印象深い思い出を残し、生態建設という偉大な事業が私達に友好の架け橋を作り、この5年来の友好的な合作がお互いの心を固く結びつけ、緑化という渴望と追求が相互の合言葉となったことに確信をもちました。視察団が訪れた先々では、日本人民が緑化への生態環境への崇拝と追求が顕著に見受けられ、都市の建設は少し密度が高く見受けられますが至る所に高い木や色鮮やかな草花が植

えられていました。モダンで洒落た建物、清掃され整備された道路、交通マナーが守られた街中、物腰が柔らかい市民と良好な生態環境の融合が一体化し、まさにこれこそが人と自然が融合した社会だと思えます。

日本の多くの市民が生態環境建設に対する愛情と支持の精神を我々は学ばなくてはならない。日本は高度に発達した市場経済国家ですが、生態建設については、多くの人達が投資した収益を考えずに、ボランティアとして募金をする。この5年来KFGが蘭州市南北両山へ提供した720万円は全て毎年会員より集められた会費によって賄えられている。これこそ日本の多くの市民が生態環境に対する愛情と支持を如実に表している。私達はこの点で頑張らなければならない。《蘭州市全市民義務植樹方法》の宣伝活動に力を注ぎ、多くの市民に生態建設についての関心と支持の自覚をもっと高めさせるよう努力し、結果多くの市民が行動を起こせば、自覚して法律上の義務を履行し率先して義務緑化費を納付すれば、全市民が参加する生態建設の新局面が瞬間に形成されるだろう。

日本の多くの市民が自覚して生態環境の保護をする精神を我々は学ばなくてはならない。視察団が訪れた六甲山等の森林公園は全て市民に開放的で、入場料を取っていない、逆に市民の登山愛好家のトレーニングの場所となっている。山道は鬱蒼と樹木が生い茂り、花や果実の香りが漂い、ほとんどタバコの吸殻は見当たらず、林の中でタバコを喫煙している人も少なく、喫煙者を見かけても必ず携帯灰皿を持参しており、林の安全を確保するだけではなく、林の環境衛生も確保している。街中の車道両側に植えられている樹木や草花は折られたり千切られたりしてい



記念植樹される馬金山さん(右から2人目)

るのをほとんど見かけない。これは日本の市民が樹木の生命と生態環境を愛情で保護する意識が非常に強いことを充分に証明しており、自覚して行動している。つまり多くの市民の自覚した行動が一つの美しい生態環境を創造させている所以である。蘭州南北両山生態環境保護作業は、この日本の成功した経験と方法を学び、まず行動を起こし積極的に「生態環境を保護するものは榮譽であり、ゴミを捨て散らかし、樹木を破壊するものは恥だ」という雰囲気大きく宣伝し、多くの市民が共に行動を起こし、自覚して林区の管理規定を遵守し、特に林区の経営者に監督管理を強化させ、生活や商業ゴミの不法投棄を防ぎ、南北両山の生態環境の保護水準を高める努力をするよう求めていきます。

<今後への期待>

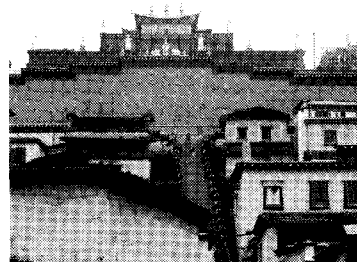
我々はKFGとの長期的且つ広範囲に合作することを高度に重視する必要がある。日本の乾燥地造林技術関連の先端研究成果の導入、南北両山に係わる技術幹部と幹部候補の海外研修を促進させ、南北両山の生態建設における技術者の養成プランの構築をする。相互の交流と定期的な訪問を確立させ、相互の人的交流を増やし想いと感情を深め、我々の友誼を更に高め、合作関係を安定的に維持できるよう望みます。

2007年度 植樹ワーキングツアー日程決定

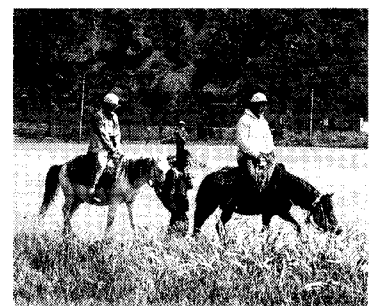
今年は、9月16日～24日に決まりました。詳しいコースは5月の通常総会時には、お知らせできます。

昨年のツアーには51名が参加され、そのうち初参加者は12名で、女性は21名と頑張っています。そして植樹のあと、雲南省の香格里拉まで足を運びましたが、皆さんにとっての「理想郷」だったのでしょうか？

今年も魅力ある中国の自然・文化を巡る旅となるよう企画します。マイルスケジュールを早いうちに書き入れて下さい。



香格里拉の松贊林寺



馬上の会員さん

私と環境(6) 丹波市・下滝いろいろ 「姫ぼたる」

KFG会員
村上鷹夫

日本にいる蛍の種類は沢山ありますが、成虫になって光るのは主に源氏ぼたる・平家ぼたる・姫ぼたるの3種類と言われています。

源氏ぼたるの幼虫はカワニナを食べ川原で光り、平家ぼたるの幼虫はタニシ等を食べ池や水路で光りますが、姫ぼたるはオカチョウジガイ等の陸生貝を食べ山の杉林や竹藪で光ります。

ぼたるの大きさは、源氏・平家・姫の順で山南町の姫ぼたるが一番小さく数ミリです。発光周期は源氏が2秒、平家が1秒、姫は0.5秒です。ここで姫ぼたる(山南町)の特徴を述べてみます。(未だ謎は多いですが)一番の特徴は雌は飛べないと言う事です。従って川が有ったり道が有るとそこを通り越して移動出来ないのので、何かの環境変化が起これば絶滅します。又、雌は交尾すると発光しないので、光っているのはほとんど雄です。

名古屋市相生山緑地が道路計画の為、姫ぼたるが危機にひんしているので幼虫調査を市民グループで実施し、道路計画が変更された時の実行

委員長は、動物写真家の小原玲さんでした。

幼虫の食べ物は、オカチョウジガイと言われているが他の陸貝等肉食で、幼虫を捕獲するときに鳥賊・肉等にも集まって来ました。発光周期が短く写真フラッシュの様な光が無数に重なった時は最高に感激します。

山南町の生息場所は、竹藪や森で去年124ヶ所、今年(2006年)160ヶ所で未だ確認されていない場所も有ると思われ(夜に暗い山での調査のため)。

去年、第1回姫ぼたるまつりを開催し、6/10日～7/16日の主に土曜日の参加者は約2000名になった様です。6/10日には黄河の森の仲間、高岡さんご夫婦・辻さん・清水さんご夫婦・近藤さんご夫婦と子供さんお孫さん等も参加していただき、夜の観察場所では気温の上昇が遅く、姫ぼたるの数は少なかったですが、源氏・平家・姫ぼたるを同じ場所で同時に観察出来ました。川の中を走るイノシシもおまけにみれた人も有ったと思います。

姫ぼたるの愛称を公募して「姫丹



山南町にて

波」と決定しました。これからは、「杜のぼたる・姫丹波」で末永くお祭りを続けたく思っていますので、機会があれば是非山南町にお越し下さい。

特区で造るドブクロの名前も「姫丹波」とし、赤米を使ったピンク色のドブクロを造ろうと、仲間たちと努力していますので、2007年の第2回姫ぼたるまつりには、ご賞味いただけると思います。

絵本からの エコ・メッセージ IV

「パパが宇宙をみせてくれた」

KFG会員 畑中弘子 (児童文学者)

ある日の夕方、パパがぼくにいう。「宇宙をみせにつれていってやろう」ふたりはママのいうように、からだをあたたかくしてでかけた。

宇宙食のガムをマーケットで買い公園をぬけ、かなもの屋さんやさかな屋さんの前を通り、郊外にでる。

パパにだかれて、水路をとびこえて、ひくい丘にでた。やっとパパの足がとまる。

「ここなの？」パパがうなずいた。そこは近所の人たちがよく散歩している原っぱだ。

ぼくは目をこらして宇宙をみる。くらがりのなかにうかんでいるのは石の上のカタツムリ、ひよろ長い草、

アザミ…。

パパがぼくにいった。「上だよ、上だ」みあげると、空いっぱい、星がふるようにまたたいている。

そしてぼくははじめて知ったのだ。宇宙とは身近なものから、はるかかなたの星々まで、存在している世界、すべてのことなのだ。

この宇宙観をわすれない限り、自然を大事にしていく人類でありつづけるのではないだろうか。

「宇宙っていったい何なの？」

「この世界ぜんぶさ」

と答えたパパのことが印象的である。



ウルフ・スタンク 作/エヴァ・エリクソン 絵
ひしきあきこ 訳/BL出版

黄土高原の植物VII

紅砂 (ベニスナ)

KFG顧問 徳岡 正三 (元高知大学農学部教授)

2007年度から始まる予定のII期緑化支援では紅砂の植栽が計画されている。紅砂はこのシリーズのNo.5で紹介しているが、今後かなり重みのある木となりそうなので、改めて取り上げてみたい。

紅砂(紅沙とも書く)は日本名がないので、中国語の発音をカタカナ表記してホン・シャーと呼んでいた。これからはベニスナと呼ぶことにしたい。

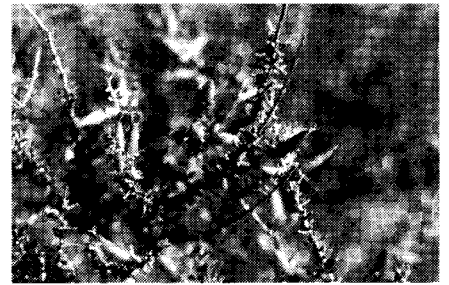
「中国主要樹種造林技術」という本には砂固定や水土保持の低木として10種が紹介されている。「治砂造林学」には同じく11種が紹介されている。また「中国退耕環林主要樹種」には50種ほどが紹介されている。しかし、いずれにもベニスナは取り上げられていない。2006年9月のワーキングツアーに参加した際、指揮部から「蘭州南北両山常用樹種造林技術」という資料をいただいた。蘭州市がどのような木を用い、どのように緑化するかが書かれている。この中にもベニスナの記事はなかった。ベニスナの植物としての紹介は植物誌や図鑑にはある。前回のNo.5では「中国飼用植物誌第1巻」から引用させていただいた。いざベニスナを植栽するとなっても、どのように苗を育て、植え、管理すればよいかを解説した文献がみあたらない。どうやら、これまで人工でベニスナを育てることがまづなかったように思われる。

ベニスナは黄土高原の「建群種」といわれ、優勢に分布して、私たちの日中友好林でもよく見かける小低木である。その地に昔から生育しているので「郷土種」ともいわれる。厳しく乾燥した土地でもめげず育つので「超旱(乾)生」の植物に分類される。

「中国沙漠」という学術雑誌が中国科学院の蘭州にある研究所から年6回発行されている。すべてに当たったわけではないが、この雑誌でもベニスナに関する記事を見た記録がない。ところが2006年7月発行の26巻4号にベニスナに関する論文が、いっきに5編掲載された。この内の2編は私たちのカウンターパートである指揮部の王万鵬、朱恭、李正平の3氏が連名で発表されている。

どうやらベニスナの「建群種」、「郷土種」、「超旱生」が改めて注目され、小低木ではあるが、低コストで荒地を緑で覆うことができるとして、この植物の研究が始まったようだ。王万鵬さんたちはベニスナの育苗の技術を開発し、植栽に自信を持ったことで、今後の造林樹種として積極的にベニスナの利用に踏み切ったのだろう。

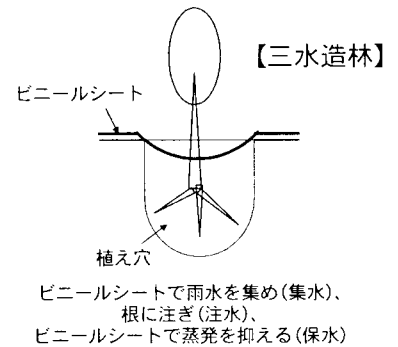
II期支援地では、ベニスナを三水造林(会報4号の「日中友好林とその周辺の緑化のやり方」を参照)で育成する計画である。三水造林は少ない雨水を有効に利用して木を育てる方法であるが、まだ歴史が浅く、



ベニスナの葉と果実
(長さはそれぞれ0.5~5mm, 5~6mm)



ベニスナのポット育苗
(紙コップ大のポットにタネをまいて苗を育てる)



この技術は開発の途上にあるともいえる。少し不安があるが、現地技術者の挑戦を応援したい。

筆者は「沙漠植物誌」を翻訳して「中国砂漠・沙地植物図鑑木本編」を東方書店から出版している。この本をKFGの事務局に置かせてもらっているの、ベニスナについての記載をご覧いただければ幸いである。

六甲山クリーン&グリーン活動

第7回 六甲山クリーンアップ活動

身近にできることから始めよう

今年も春の清掃ハイクを下記の要領で実施します。春の1日を六甲山で美化活動に参加しませんか。小雨時も実施します。

- 山 域 保久良神社から荒地山
- 日 時 2007年4月1日(日)AM.9:00
- 歩 行 約4時間30分 約12km
- コース 岡本駅～保久良神社～風吹岩～横池～荒地山(昼食)～芦屋ゲート～(芦屋川右岸)～芦屋川駅
- 持参品 弁当・水筒・雨具・タオル・ビニール袋・軍手・おやつ・はさみ
- リーダー 矢野 正行 ●サブリーダー 安本 昭久

六甲山植樹 一住吉山手3期植樹一

昨年の訪日団記念植樹から六甲砂防事務所より苗木に加え、添え木も提供していただくことになりました。苗木の生育には良い事と思われま。労力のほうも充実させねばなりません。ご協力のほどお願いします。
第3期の植樹地は昨年度実施箇所の上流(堰堤の上)約800㎡、苗木200本(約4㎡に1本)。

- 2007年2月18日(日)植樹地草刈
- 3月4日(日)植樹準備
- 3月18日(日)植樹作業
- 6月上旬 第1回下草刈予定
- 集 合 J R住吉駅南側 AM.9:00
- 服 装 長袖・帽子
- 持参品 弁当・水筒・軍手・タオル

四万十の森づくり植樹

“KFG会員参加”

11月5日、日本最後の清流で有名な高知県四万十川流域で開かれた植樹祭に全国から参加した400名が、アカガシなど広葉樹の苗木約2000本を植えました。KFGからは、大阪・神戸そして地元中村市の会員8人も参加しました。

参加できる方は
事務局までお知らせ下さい!!



“蘭州の植林”に夫婦で参加

清水利英・やす子

長年の想いでありました黄河の森緑化ネットワークの植林ワーキングツアーに漸く夫婦で参加することが出来ました。

蘭州で見たどこまでも続く禿山の峰々には息を呑む思いでしたが、植林の地に行きますと、灌漑もゆきとどき、先輩の方々が何年もかけた努力が見事な緑を造っておりました。植林はバケツリレーのように苗木をリレーで運び植えるのですが、この共同作業はほんとうに楽しいものでした。今回は都合で午前中みの作業でしたが、ゲストハウス（何故か別荘と称しておりました）で、蘭州の植林の最高責任者（馬さん）始め、現地の方々もご列席され昼食会となりました。料理も大変美味しく頂きましたが、特産のパイチュウ（白酒）はかなり強いお酒でしたが、その香りは何とも素晴らしく美酒とはこの酒だと思いました。カンペーは字のごとく、杯を飲み乾すのが礼儀・ルールとか、杯を重ねる毎に酔いが回り、足元も覚束なくなるようでした。このパイチュウをお土産にと蘭州の酒屋で5本も仕入れましたが、手荷物での機内持ち込みが難しいこともあり、他の人にも預かって頂くなど、持ち帰るのに苦労致しました。

この後、ツアーは雲南の省都昆明から、麗江、香格里拉へと進みました。紙面の都合で詳細は省略しますが、揚子江の上流・源流域の深い溪谷や雪を頂く玉龍雪



日中友好林での植樹

山、のどかな香格里拉の平原と湖とちょっとした高山病の体験、日本の原風景を見るような雲南の稲刈りなど、そして夫々の土地での美味しい食事と思い出多い旅となりました。

このように楽しく印象深い旅を経験できたのは、考えぬかれた企画やコース設定とともに、短期間でしたが参加者の方々から、ほんとうに旧知のように接して頂いたこと故とっております。関係者の皆さん、参加者の皆さん、ありがとうございました。次回も是非参加したいと思っています。

緑は地球の財産

浅野 扶美子

友人から、とても楽しい中国ツアーがあると誘われていて、今回ようやく参加できました。目的はあこがれのシャングリラ。シャングリラは期待どおりの美しさでした。ゆったりと牧歌的な時間が流れている風景の中を、ひたすら走り抜けるような感じでしたが、あの風景は目に焼きついています。全く勝手な話ですが、これ以上俗化しないほしいものだと思います。

出発前はあまり考えていなかったことですが、蘭州で植樹をし、帰ってからフォーラムに参加するなかでは、いろいろと学ぶことができました。はげ山だった六甲山が100年程で今のような美しい山に蘇ったことを知っていたので、30年かかってやっと2m程の小灌木に育った紅沙の木を見た時はショックでした。緑化がどんな大事業かわかると同時に、日本がどんなに自然に恵まれているかを痛感しました。そして、乾いた黄土高原も豊かな日本の緑も、今では地球全体の財産として見る視点が必要なのだらうと思いました。黄土高原の植樹を進める一方で、熱帯雨林の木材を大量に消費する生活にも目を向けなければと感じています。

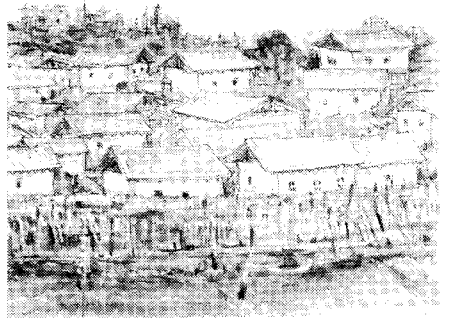
初めての植樹

魅谷 京子

いろいろな方々に出会えたことが、私の財産になりました。

初めての蘭州での植林は、体力の心配、役に立ってるのだらうかとの不安でいっぱいでした。

一本の木を植え終える度の私の「ハイ」との声に笑って必ず「はい」と答えてくれた青年の素直で、きれいなヒトミに来年も会うことが出来ますように。



香格里拉 辻 恵子 画

事務局からの お知らせをお願い

*2006年度の会費

(2006. 4. 1～2007. 3. 31)をお忘れの方は、よろしくお願ひします。

*第4回通常総会は5月26日(土)

神戸中華会館7Fにて開催します。当日、講演会・写真展・交流会を予定しております。詳しくはホームページと案内書でお知らせします。

*会報への投稿をお待ちしています。K F Gの活動の助言や環境問題の情報、ご自分の考えなどをお寄せ下さい。本誌は2月・7月発行です。